

JP2002-123459

[0006]

[Means for Solving the Problem]

To achieve the above object, the content distribution system of the present invention distributes common contents to different types of terminals, and has a content memory means for memorizing the contents in association with the types of the contents, an identification means for identifying the types of the terminals, and a control means for acquiring type information about the terminals from the identification means based on access from a terminal requesting distribution of a predetermined content, and, upon distributing the corresponding content to the terminal, attaches an identifier designating a display of the content on the terminal, to the content, according to the type of the content and the type information.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-123459

(P2002-123459A)

(43)公開日 平成14年4月26日(2002.4.26)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マコード*(参考)
G 0 6 F 13/00	5 5 0	G 0 6 F 13/00	5 5 0 L 5 B 0 7 5
12/00	5 4 6	12/00	5 4 6 R 5 B 0 8 2
17/30	1 1 0	17/30	1 1 0 F

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 9 頁)

(21)出願番号 特願2000-314311(P2000-314311)

(22)出願日 平成12年10月13日(2000.10.13)

(71)出願人 500343278

株式会社エヌネット

岩手県盛岡市南大通1丁目12番24号

(72)発明者 照井 隆幸

岩手県盛岡市南大通1丁目12番24号 株式会社エヌネット内

(74)代理人 100064908

弁理士 志賀 正武 (外6名)

Fターム(参考) 5B075 PQ02 PQ05

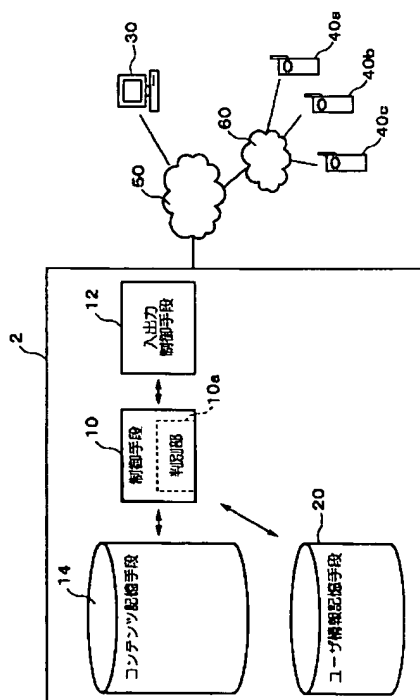
5B082 GA02 HA05 HA08

(54)【発明の名称】 コンテンツ配信システム及びコンテンツ配信方法

(57)【要約】

【課題】 種別の異なる端末からのアクセスに対して共通のコンテンツを配信することで、端末の種別毎にコンテンツを作成しなくて済むコンテンツ配信システム及びコンテンツ配信方法を提供する。

【解決手段】 コンテンツをコンテンツの種類と関連付けて記憶するコンテンツ記憶手段14と、コンテンツの配信を希望する端末40a~40cの種別を判別する判別手段(判別部)10aと、制御手段10とを備え、制御手段10は端末40a~40cからのアクセスに基づいて判別部10aから端末の種別情報を取得するとともに、対応するコンテンツを端末40a~40cに配信する際、コンテンツの種類と種別情報とに応じ、端末40a~40cでのコンテンツの表示を指定する識別子を当該コンテンツに付す。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 種別の異なる端末に対し、共通のコンテンツを配信するコンテンツ配信システムであって、前記コンテンツを、該コンテンツの種類と関連付けて記憶するコンテンツ記憶手段と、前記端末の種別を判別する判別手段と、制御手段とを備え、

前記制御手段は、所定のコンテンツの配信を希望する端末からのアクセスに基づいて前記判別手段から該端末の種別情報を取得するとともに、対応するコンテンツを前記端末に配信する際、前記コンテンツの種類と前記種別情報とに応じ、前記端末でのコンテンツの表示を指定する識別子を当該コンテンツに付すことを特徴とするコンテンツ配信システム。

【請求項2】 前記制御手段は、前記端末の種別に応じた記述言語を用いて前記コンテンツを当該端末に閲覧可能に配信することを特徴とする請求項1に記載のコンテンツ配信システム。

【請求項3】 請求項1又は2に記載のコンテンツ配信システムにおいて、当該コンテンツ配信システムはネットワークに接続され、

前記ネットワークに接続された所定のコンテンツ登録端末から前記コンテンツの作成又は更新が可能であることを特徴とするコンテンツ配信システム。

【請求項4】 前記コンテンツの作成又は更新を許可されたコンテンツ作成ユーザの情報を記憶するユーザ情報記憶手段を更に備え、

前記コンテンツは、当該コンテンツ作成ユーザの情報と関連付けて記憶されていて、

前記制御手段は、前記コンテンツ登録端末から前記コンテンツの作成又は更新の要求があった場合、前記コンテンツ作成ユーザの情報に基づいて前記コンテンツの作成又は更新を許可するか判断することを特徴とする請求項3に記載のコンテンツ配信システム。

【請求項5】 種別の異なる端末に対し、共通のコンテンツを配信するコンテンツ配信方法であって、前記コンテンツを、該コンテンツの種類と関連付けて記憶する工程と、

前記端末の種別を判別する工程と、所定のコンテンツの配信を希望する端末からのアクセスに基づいて該端末の種別情報を取得する工程と、対応するコンテンツを前記端末に配信する際、前記コンテンツの種類と前記種別情報とに応じ、前記端末でのコンテンツの表示を指定する識別子を当該コンテンツに付す工程とを備えたことを特徴とするコンテンツ配信方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、種別の異なる端末

からのアクセスに対し、所定のコンテンツを各端末に提供するコンテンツ配信システム及びコンテンツ配信方法に関する。

【0002】

【従来の技術】最近、携帯電話（携帯端末）によるインターネット接続サービスが行われるようになってきており、携帯電話から種々のコンテンツの取得が可能になっている。このようなコンテンツの記述言語として、パーソナルコンピュータ等ではHTML（Hyper Text Markup Language）が用いられている。一方、携帯電話では、無線通信を行うことや、データの処理や表示能力がパーソナルコンピュータに比べて低いことから、HTMLと異なる記述言語を用いている。この場合、携帯電話の機種（種別）や通信業者により、それぞれ独自の記述言語として、例えば、WML（wireless markup language）、HDML（handheld device markup language）やコンパクトHTML等が用いられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記した携帯端末の記述言語は互換性が非常に低く、同一内容のコンテンツを各種別の携帯端末に配信しようとする場合には、Webサイト側で各種別の記述言語に応じたコンテンツをそれぞれ登録する必要があり、その作業がきわめて煩雑になるという問題が生じる。さらに、このように各種別毎にコンテンツを登録した場合、コンテンツを閲覧するためには、たとえコンテンツの内容自体が同一であっても、各種別毎に別々のアクセス情報（URL（UniformResource Locator）を指定してサイトへアクセスする必要があり、ユーザにとって一々端末の種別毎にURLを管理する不都合がある。

【0004】又、上記コンテンツは、サイトの管理者側だけでなく、インターネット等を介して当該サイトに接続された端末（例えばパーソナルコンピュータ）から一般ユーザが簡単に作成、修正できることが好ましい。しかしながら、一般のユーザにとって、上述の如く携帯端末毎の記述言語でコンテンツを作成するのは容易ではない。

【0005】本発明は、上記した問題点に鑑みてなされたもので、種別の異なる端末からのアクセスに対して共通のコンテンツを配信することで、端末の種別毎にコンテンツを作成したり種別毎に別々のアドレスを指定してコンテンツにアクセスする必要がなく、又、種別コンテンツの登録や更新を端末の種別を意識せずに簡単に行えるコンテンツ配信システム及び方法を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記した目的を達成するために、本発明のコンテンツ配信システムは、種別の異なる端末に対し共通のコンテンツを配信し、前記コンテンツを、該コンテンツの種類と関連付けて記憶するコン

テンツ記憶手段と、前記端末の種別を判別する判別手段と、所定のコンテンツの配信を希望する端末からのアクセスに基づいて前記判別手段から該端末の種別情報を取得するとともに、対応するコンテンツを前記端末に配信する際、前記コンテンツの種類と前記種別情報とに応じ、前記端末でのコンテンツの表示を指定する識別子を当該コンテンツに付す制御手段とを備えたことを特徴とする。

【0007】又、本発明のコンテンツ配信システムは、前記制御手段は、前記端末の種別に応じた記述言語を用いて前記コンテンツを当該端末に閲覧可能に配信することを特徴とする。

【0008】前記コンテンツ配信システムにおいて、当該コンテンツ配信システムはネットワークに接続され、前記ネットワークに接続された所定のコンテンツ登録端末から前記コンテンツの作成又は更新が可能であることが好ましい。

【0009】さらに、本発明のコンテンツ配信システムは、前記コンテンツの作成又は更新を許容されたコンテンツ作成ユーザの情報を記憶するユーザ情報記憶手段を更に備え、前記コンテンツは、当該コンテンツ作成ユーザの情報と関連付けて記憶されていて、前記制御手段は、前記コンテンツ登録端末から前記コンテンツの作成又は更新の要求があった場合、前記コンテンツ作成ユーザの情報に基づいて前記コンテンツの作成又は更新を許可するか判断することを特徴とする。

【0010】本発明のコンテンツ配信方法は、種別の異なる端末に対し共通のコンテンツを配信し、前記コンテンツを、該コンテンツの種類と関連付けて記憶する工程と、前記端末の種別を判別する工程と、所定のコンテンツの配信を希望する端末からのアクセスに基づいて該端末の種別情報を取得する工程と、対応するコンテンツを前記端末に配信する際、前記コンテンツの種類と前記種別情報とに応じ、前記端末でのコンテンツの表示を指定する識別子を当該コンテンツに付す工程とを備えたことを特徴とする。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について、図1を参照して説明する。図1は、本発明のコンテンツ配信システム（以下、適宜「本システム」という）2の一実施の形態を示す構成ブロック図であり、詳しくは後述するコンテンツ記憶手段（データベース）14、システム全体を制御する制御手段10、及びネットワーク50との情報の送受信を行う入出力制御手段12を備えている。制御手段10は、本システムを構成する所定のサーバ装置の中央演算処理装置として実現可能である。又、本システム2にアクセスした端末の種別を判別する判別部6aは制御手段6の一部をなしている。又、本システムは全体としてWebサイトを構成している。

【0012】本システム2はネットワーク50に接続され、当該ネットワーク50を介して、本システム2が備えるコンテンツの配信を希望するユーザの端末40a～40cからのアクセスを受け入れる。ここで、端末40a～40cは携帯電話機、PHS、PDA（Personal Digital Assistants：個人用情報機器）などの携帯端末のほか、パーソナルコンピュータなどの固定端末でもよい。携帯端末の場合には、各端末は移動体通信網60を介してネットワーク50に接続される。又、各端末40a～40cにはWebページを閲覧可能なブラウザが搭載される。ネットワーク50として、インターネットの代わりに、専用回線、LAN（Local Area Network）、WAN（Wide Area Network）等を用いることもできる。

【0013】なお、この実施形態では、端末40aはコンパクトHTMLを記述言語とするインターネット接続サービスを受ける端末、端末40bはHDMLを記述言語とするインターネット接続サービスを受ける端末、端末40cはWMLを記述言語とするインターネット接続サービスを受ける端末とするが、パーソナルコンピュータ等の場合はHTMLを記述言語として用いる。

【0014】一方、ネットワーク50には本システム2にアクセス可能なコンテンツ登録端末30が接続され、前記コンテンツの作成又は更新を行うことができる。コンテンツ登録端末30についても、上記したパーソナルコンピュータ等の固定端末や携帯端末を用いることができる。

【0015】本システム2において、コンテンツ記憶手段14は、各端末40a～40cに配信するコンテンツを、後述するコンテンツの種類に関連付けて記憶する。なお、後述するが、コンテンツの作成や更新を許可されたユーザ毎に複数のコンテンツを記憶することができ、又、各コンテンツは複数のページ（個々のページを以下「コンテンツデータ」と称する）を備えることができる。さらに、各ページと他のページとの従属関係やページ間の階層構造の情報を記憶することもできる。各ページは、端末で表示される文字情報のほか、他のページ等へのリンク情報、所定のボタンを選択することで自動的に電話をかけることのできる電話番号をデータとして保持することもできる。又、ユーザ情報記憶手段20は、本システムへアクセスしてコンテンツの作成又は更新を許可されたユーザ（コンテンツ作成ユーザ）毎に割り当てられた認証情報（ID（Identification）やパスワード）を記憶する。

【0016】次に、図2を参照して、コンテンツ配信の際の本システム2及び端末40a、40bでの処理フローを説明する。図2において、コンテンツの配信を希望するユーザは、端末40aを用いて本システム（Webサイト）へ閲覧を希望するコンテンツを指定してアクセスする（ステップS200）。アクセス方法は、Webサ

イトである本システムに対して割当てられたURL (Uniform Resource Locator) を指定すればよく、又、所定のメニュー画面に登録されたリンクを選択するようにしてもよい。本システムの制御手段6 (判別部6a) は、端末40aから送信されたアクセス情報に基づいて端末の種別を判別する(ステップS100)。種別の判別は、各端末が本システムのURL (アドレス情報) を指定した際、各端末に搭載されたブラウザが所定の手続きに従って付加する情報 (環境変数) に基づいて行う。具体的には、ユーザが本システムのアドレスを指定して、「http://www.nnet.ne.jp/index.html」なる情報の取得を希望する場合、ユーザ端末のブラウザは、「http」の部分から通信方法 (プロトコル) を判別し、サーバ (本システム) 「www.nnet.ne.jp」に対してTCP/IP (プロトコル) 接続を行う。接続が終了すると、判別した通信方法に応じた手順で取得したい情報の要求をサーバに対して行う。そして、ユーザ端末のブラウザがこの要求を送出する際、ブラウザの種類を含む環境変数を自動的に付加するようになっている。この際のリクエストの送出方法や環境変数の付加方法はインターネットの標準として取り決められている。環境変数としては、(User-Agent) 「Docomo/～」, 「J-PHONE/～」, 「Browser/～」等があり、これらは端末の種別毎に異なっている。従って、制御手段6は、この文字列を比較することにより判別を行う。ここで、http (Hyper Text Transfer Protocol) は、HTML形式のデータをやりとりする通信プロトコルである。又、環境変数の付加は、端末のブラウザの他、携帯端末の通信基地局、あるいはプロキシサーバを経由した際に付加される場合もある。なお、これらの環境変数は、ユーザが意識することなく、ブラウザ等から自動的に送出されるので、ユーザは本システムから所定のコンテンツを取得する際、端末の種別に関係なく共通のアドレス (上記例では「http://www.nnet.ne.jp/index.html」) を指定すればよい。

【0017】次に、制御手段10は、受信したコンテンツの配信要求情報に基づいて、コンテンツ記憶手段14から対応するコンテンツを抽出するとともに、判別部10aからの情報により端末40aの種別を取得し、種別情報及び抽出されたコンテンツの種類に基づき、所定の識別子を当該コンテンツに付し、入出力制御手段12を介して端末40aに配信する(ステップS110)。端末40aはこれを受信し、ユーザはコンテンツを閲覧する(ステップS210)。識別子は各端末の種別毎に用いられる記述言語で指定されたタグからなり、コンテンツの表示等を制御して端末上に閲覧可能にする機能を有する。識別子の付与方法については後述する。

【0018】次に、他の種別の端末40bに上記と同一のコンテンツを配信する場合の処理フローを考える。この場合、記述言語が異なるので、端末40aと同じ識別子を用いることはできない。

【0019】まず、ユーザは端末40bにより本システムへ閲覧を希望するコンテンツを指定してアクセスする(ステップS300)。制御手段6 (判別部6a) は、端末40bから送信されたアクセス情報に基づいて端末の種別を判別する(ステップS120)。次に、制御手段10は、受信したコンテンツの配信要求情報に基づいて、コンテンツ記憶手段14から上記と同一のコンテンツを抽出し、判別部10aから取得した端末40bの種別及び抽出されたコンテンツの種類に基づき、所定の識別子を当該コンテンツに付し、入出力制御手段12を介して端末40bに配信する(ステップS130)。端末40bはこれを受信し、ユーザはコンテンツを閲覧する(ステップS310)。このようにして、各端末毎に異なる識別子 (タグ) を付すことにより、同一のコンテンツが各端末で閲覧可能となる。又、コンテンツ記憶手段14に記憶されたコンテンツデータは単一であるので、端末の種別に関わらず共通のアドレス情報 (URL) を指定するだけで、同一のコンテンツにアクセスすることができ、ユーザが種別毎に異なるアドレス情報を管理する必要がない。つまり、同一のコンテンツに対し、各種別の記述言語に応じた別々のコンテンツデータを準備した場合、端末の種別が異なればコンテンツにアクセスするためのアドレス情報も変わることになり、種別毎にアドレスを管理する不都合が生じることになる。特に、同一のコンテンツを状況に応じて別の種別の端末で閲覧しようとする場合、アドレス情報が共通であると非常に便利である。

【0020】次に、上記したコンテンツを各端末40a、40b上に表示させた場合の画面遷移例を図3に示す。この図において、端末40a、40bにより本システムにアクセスしたユーザは、本システムで配信可能なコンテンツを表示するメニューページ400から「NNETモバイルサイト」なる所定のコンテンツを選択する(図3(1))。端末40a、40bには、NNETモバイルサイトのコンテンツ一覧ページ410が次に表示され、ユーザが「製品案内」410aなるコンテンツ項目を選択すると(図3(2))、製品案内ページ420が表示される(図3(3))。ここで、ユーザが「新製品情報」420aなる小項目を選択すると、新製品情報ページ430が表示され、ユーザはその内容を閲覧することができる(図3(4))。

【0021】次に、ステップS110、S130において、コンテンツに識別子を付す処理について、図4～図7を参照して詳細に説明する。なお、以下の図4～図7では、図3(4)のページ430に該当するコンテンツに識別子を付して配信する場合を例として説明する。

【0022】図4は、コンテンツ記憶手段14に記憶されている共通のコンテンツデータ14aの構成を示す。コンテンツデータ14aは、各端末で表示されるページ毎に記憶される。この図において、コンテンツデータ1

4 aには、コンテンツ（内容）1 4 eが記載され、各コンテンツ1 4 e毎にコンテンツの種類1 4 fが関連付けられている。コンテンツ1 4 eは、各端末に表示されるコンテンツの内容部分である。又、コンテンツの種類1 4 fは、各コンテンツ1 4 eが端末上に表示される際の表示態様を指定し、ページ記述言語毎に定められる識別子（タグ）を規定する。例えば、「新製品情報」なるコンテンツは、ページの「見出し」として表示され、「今年の…新製品情報です」なるコンテンツは、ページの「テキスト本文」として表示され、「パソコン」なるコンテンツは、ページの「選択項目」として表示される。コンテンツの種類1 4 fとしては、この他に「リンク指定」や「画像表示」等が挙げられる。

【0023】制御手段10は、コンテンツ記憶手段14からコンテンツデータ14 aを抽出する際、コンテンツ1 4 e毎に上記図4に示したコンテンツの種類1 4 fを取得し、次に所定のプログラムに従って、端末の種別情報とコンテンツの種類1 4 fに応じた識別子（タグ）を決定する。図5は、上記プログラム上でタグを決定するための対応関係を示す表16であり、コンテンツの種類1 6 a、及び端末の種別1 6 b、1 6 cに応じたタグが規定されている。例えば、図4に示した「見出し」に対して、端末の種別1（コンパクトHTMLを用いる端末40 aに相当）では「<H>～</H>」なるタグが規定され、種別2（HDMMLを用いる端末40 bに相当）では「<LINE>（さらに、適宜末尾に
を付加）」なるタグが規定される。又、コンテンツの種類「ページの開始、終了」の場合は、各コンテンツデータ1 4 a毎に自動的に付すよう、プログラム上設定されている。そして、この対応表16に基づき、上記プログラムによりタグを決定し、各コンテンツ1 4 eに付すようになっている。

【0024】図6及び図7は、コンテンツ1 4 eにタグを付した文書データ18、19を示す。この文書データが各端末40 a、40 bに配信されるコンテンツとなる。図6は、端末40 aに配信される文書データ18であり、図3のページ430に該当するコンテンツがコンパクトHTMLで記述されている。このうち、タグ18 a、18 bは、コンテンツ1 4 eの頭と末尾に自動的に付され、タグ18 c～18 eは、図4に示したコンテンツの種類1 4 fに応じて付される。又、タグ18 zは、コンテンツ1 4 eに所定のヘッダ情報が含まれている場合に付される。

【0025】図7は、端末40 bに配信される文書データであり、図6の場合と同一のコンテンツがHDMMLにより記述されている。このうち、タグ19 a、19 bは、コンテンツ1 4 eの頭と末尾に自動的に付され、タグ19 cと19 eは、図4に示したコンテンツの種類1 4 fに応じて付される。なお、このページ記述言語（HDMML）では、図6のタグ18 d、18 zに相当するタ

グは規定されていない。

【0026】そして、これらの文書データを受信した各端末40 a、40 bでは、それぞれ搭載されたWWWブラウザによりタグを解釈し、同一のコンテンツ（図3のページ430）として端末上に表示する。

【0027】このように、本システム2においては、同一（単一）のコンテンツデータ1 4 aに基づき、各端末40 a、40 b毎の記述言語で記述された文書データを、各端末からのアクセスに応じていわば動的に生成して配信することにより、同一のコンテンツを異種端末上に表示することができる。

【0028】次に、上記したコンテンツを作成・更新する処理について、図8を参照して説明する。本発明においては、本システム2に接続されたコンテンツ登録端末30を用いることにより、ユーザ側からコンテンツの作成・更新が可能であることが第2の特徴になっている。なお、コンテンツ登録端末30と本システム2との通信は、インターネットの標準的プロトコルであるhttpを用いているので、コンテンツ登録端末30側には一般的なWWWブラウザを用いることができ、ユーザ側で特別な設定が不要である。

【0029】この図において、コンテンツ登録端末30により本システム2にアクセスしたユーザは、所定の端末操作を行って「コンテンツの作成」ページ500を表示させ、ユーザID及びパスワードをテキストボックス500 aに入力し、さらにログインボタン500 bを選択する（図8（1））。ユーザIDとパスワードは、本システムでコンテンツの作成や更新を許可されたユーザに対して予め指定されており、ユーザ情報記憶手段20に記憶されている。ログインボタン500 bの選択により上記ユーザID及びパスワードは制御手段10に送信され、制御手段10は送信された情報とユーザ情報記憶手段20に記憶された情報とを比較してユーザの認証を行い、両者が一致した場合は、「コンテンツ一覧」ページ510をコンテンツ登録端末30に送信する。

【0030】コンテンツ登録端末30には「コンテンツ一覧」ページ510が表示され（図8（2））、ユーザがここで所定のコンテンツ（「製品案内」510 a）を選択すると、「製品案内」510 aに関連した情報が画面600として表示される（図8（3））。なお、図8（2）で「新規作成」ボタン520 bを選択した場合には、所定のコンテンツ作成画面が表示される。

【0031】画面600は、サブ画面610、620、630からなる。サブ画面610には、コンテンツ「製品案内」に含まれる複数のページが階層構造として視覚的に表示され、サブ画面620には、サブ画面610で選択されたページの内容が編集可能に表示される。又、サブ画面630は、サブ画面610で選択されたページを配信された端末での表示を確認する画面である。

【0032】サブ画面610では、所定のページ（「新

製品情報」ページ610a)を選択し、さらにその処理をボタン610bで指定することができる。例えば、「新規作成」ボタンを選択すると、「新製品情報」ページ610aの下位に新規ページが付加される。又、「削除」ボタンを選択すると、「新製品情報」ページ610aが削除される。「並べ替え」ボタンを選択すると、「新製品情報」ページ610aが所定の位置に移動する。

【0033】サブ画面620では、「新製品情報」ページ610aの内容として、タイトル「新製品情報」620a、本文「今年の…新製品情報です。」620bがテキストボックスに表示され、コンテンツ登録端末30からの操作により、各内容620a、620bを更新することができる。更新内容は、「保存」ボタン620cを選択して決定する。更新内容は、サブ画面630に適宜反映される。又、サブ画面630は、前記図3(4)における表示と同一である。

【0034】このように、本発明においては、異種端末に配信すべきコンテンツ自体は同一(共通)であるので、コンテンツの作成や更新を1回行えば、配信を希望する端末の種別毎にコンテンツの作成(更新)をする必要がない。又、コンテンツの作成や更新は標準的なWWWブラウザを用いて行えるので、一般的なパーソナルコンピュータ等を用いてユーザが容易にコンテンツの作成(更新)を行える。

【0035】なお、本発明のコンテンツ配信システムは、コンピュータと、通信装置等の各種周辺機器と、コンピュータによって動作するソフトウェアプログラムによって実現可能である。このソフトウェアプログラムは、コンピュータ読み取り可能な記憶媒体や通信回線を介して配布可能である。

【0036】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、同一のコンテンツに、コンテンツの配信を希望する端末でのコンテンツの表示を指定する識別子を付すことにより、異種端末に対しても同一のコンテンツを表示させることができる。

【0037】又、コンテンツ記憶手段に記憶されたコンテンツデータは単一であるので、端末の種別に関わらず共通のアドレス情報(URL)を指定するだけで、同一のコンテンツにアクセスすることができ、ユーザが種別毎に異なるアドレス情報を管理する必要がない。特に、同一のコンテンツを状況に応じて別の種別の端末で閲覧しようとする場合、アドレス情報が共通であると非常に便利である。

【0038】さらに、コンテンツ自体は同一(共通)であるので、配信を希望する端末の種別を意識せずにコンテンツの登録や更新が簡単に行える。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明のコンテンツ配信システムの構成を示すブロック図である。

【図2】 コンテンツ配信システムでの処理フローを示す図である。

【図3】 コンテンツが配信される端末上での画面を示す図である。

【図4】 コンテンツデータの構成を示す図である。

【図5】 コンテンツの種類と端末の種別に応じたタグを表として示した図である。

【図6】 端末に配信された文書データを示す図である。

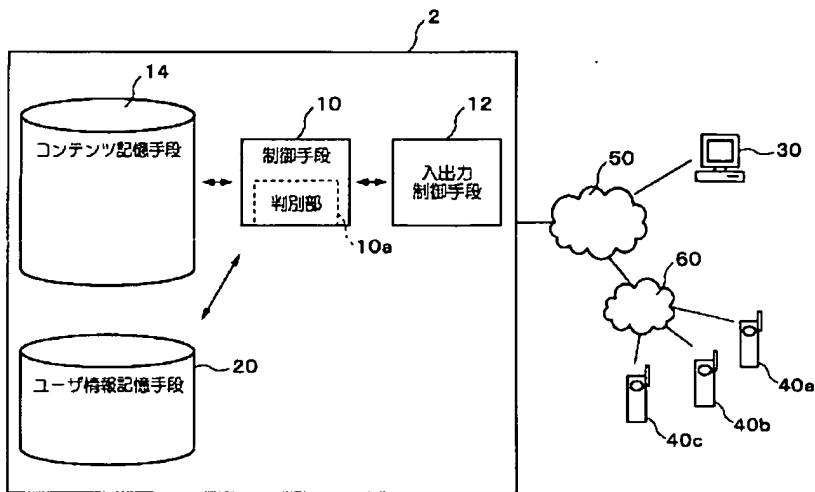
【図7】 端末に配信された文書データを示す別の図である。

【図8】 コンテンツ登録端末上での画面を示す図である。

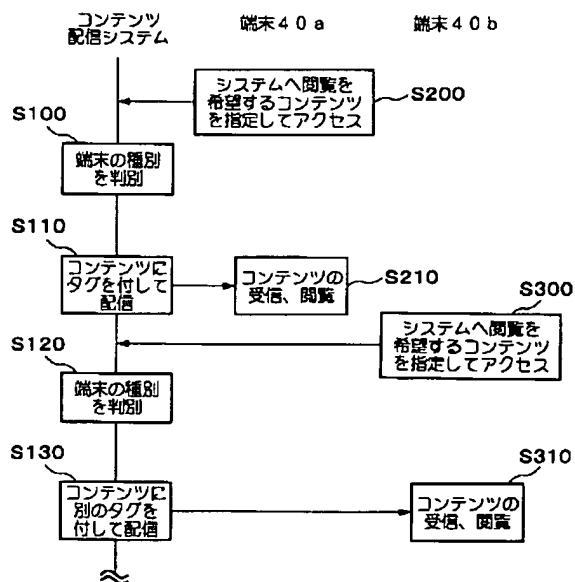
【符号の説明】

2	コンテンツ配信システム
10	制御手段
10a	判別部(判別手段)
14	コンテンツ記憶手段
30	コンテンツ登録端末
40a、40b、40c	コンテンツの配信を希望する端末
50	ネットワーク
60	移動体通信網

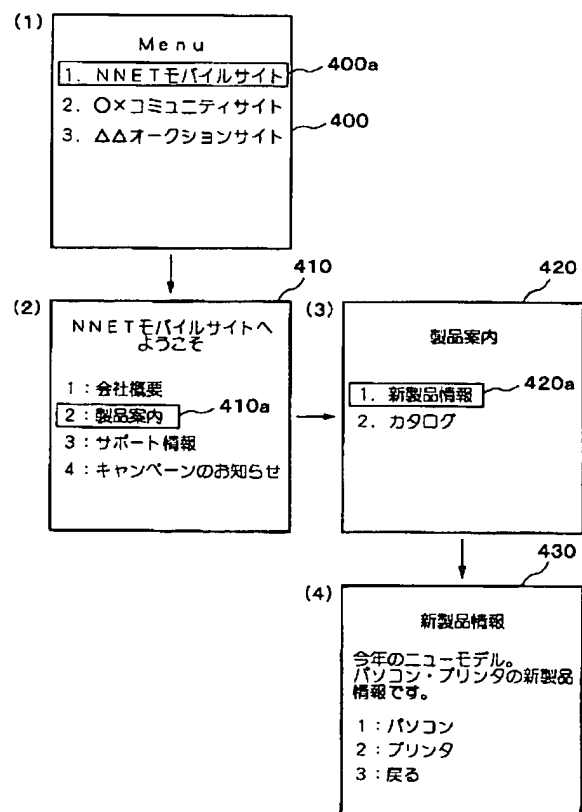
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

14a

コンテンツ	コンテンツの種類
新製品情報	見出し
今年のニューモデル。 パソコン・プリンタの 新製品情報です	テキスト本文
パソコン	選択項目
プリンタ	選択項目
戻る	選択項目

14e 14f

【図5】

16

コンテンツの種類	端末の種類	
	種別1 (コンパクトHTML)	種別2 (HDML)
ページの開始・終了	<HTML>~</HTML>	<HDML>~</HDML>
ヘッダ	<HEAD>~</HEAD>	—
ページ内容の開始・終了	<BODY>~</BODY>	<DISPLAY> ~</DISPLAY>
見出し	<H>~</H>	<LINE> (~)
テキスト本文	<P>~</P>	—
選択フォーム	<SELECT> ~</SELECT>	<CHOICE> ~</CHOICE>
選択項目	<OPTION> ~</OPTION>	<CE>

16a 16b 16c

【図6】

【図7】

18

```

18a <HTML>
    <HEAD>ヘッダ情報</HEAD> ~ 18z
18b <BODY>
    <H>新製品情報</H> ~ 18c
    <P>今年のニューモデル。パソコン・プリンタ
      の新製品情報です</P>
    <SELECT>
      <OPTION>パソコン</OPTION>
      <OPTION>プリンタ</OPTION>
      <OPTION>戻る</OPTION>
    </SELECT>
18b </BODY>
18a </HTML>
  
```

18d }
18e }

19

```

19a <HDML>
19b <DISPLAY>
    <LINE>新製品情報<BR> ~ 19c
    今年のニューモデル。パソコン・プリンタ
    の新製品情報です
    <CHOICE>
      <CE>パソコン
      <CE>プリンタ
      <CE>戻る
    </CHOICE>
19b </BODY>
19a </HDML>
  
```

19e }

【図8】

